

文化の広がり

室町時代

民衆の文化が武士の文化に取り入れられた。

民衆の文化も成長した。

- ・田植えの時の（ ）、祭りの時の（ ）という物まね劇から（ ）が生み出された。[観阿弥・世阿弥による]
- ・能の合間に演じられた（ ）では、普段の話し言葉で、大名や僧侶の失敗をやりこめる劇が演じられた。

民衆の間では、集団で楽しむ文化が盛んになった。

- ・京都では、町衆が中心となって（ ）が行われた。
- ・農村では、正月の羽根つき節句。
村祭りも盛んになる。
お盆には、（ ）を楽しむ。

- ・民衆は、猿楽を楽しみ、琵琶法師の語りに耳を傾けた。

[]
「一寸法師」「ものぐさ太郎」など幸福や民衆の夢を描いた絵入りの読み物もつくられた。

[]
多くの人が和歌の上の句と下の句を次々と別の人が詠んでつないでいくもの。

◎ 室町の文化

室町時代

- ・武家は伝統的な公家の文化を取り入れながら、武家中心の文化をつくりだした。
- ・中国から伝えられた（ ）の影響を強く受けた。

[文化]

3代将軍（ ）の時代の文化
・京都の（ ）に（ ）を建てる。

[文化]

（ ）の乱）後
8代将軍（ ）の時代の文化→→趣味の生活
・京都の（ ）に（ ）を建てる。

[]

- ・禅宗寺院の建て方を取り入れる。
- ・ふすま、障子でしきる。
- ・畳をしく。
- ・（ ）を持つ。
- ・中国から輸入された（ ）や陶器が飾られた。
- ・（ ）・生け花も広まる
- ・庭園も禅宗の影響を受けた（ ）がつくられた。
- ・墨の濃淡でえがく []
明で学んだ（ ）らが名作を残す。